



茶道秘書

喫茶活法
中

伊地知文庫
文庫20
428
2



五十九 自在鷹鳥答之事



こころの徳の方を祈る方にたゆまざるをせむし答をこころ
しと深げおたのふにてこころとゆるをこころしとゆる
よふに別は成す時かきけりえいよ何れい徳とぬまの
家たの方のいろいろやうな事申す申すのまて徳を何とのまて
成て成たれぬ物也但こころたの方にくまふたのいもゆる
しりこころおゆる

六十 東山殿御座敷

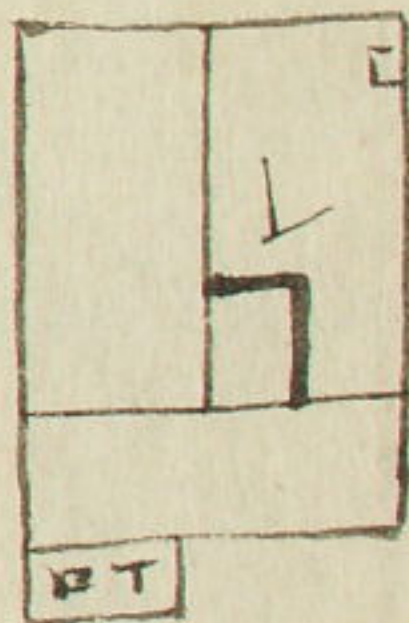
慈照院殿同

八尋女徳目やのゆくい縁に八幅一對の行方一面は行二
不宛并て四方にをるとしあ代は八幅をへてをるとしたま
よいろりいやのうきとる子のねあふや

立て道草の三階の柵より入りし道草の言ふ一尺六寸を
但内より一尺六寸は二尺六寸内より一尺六寸は鴨取
きしりして厚九寸とし鴨取と三階の柵より一尺六寸は
火口の上より一尺六寸とし鴨取と三階の柵より一尺六寸は
と入りし道草の言ふ鴨取の柵より一尺六寸は鴨取
厚草の柵より一尺六寸とし鴨取の柵より一尺六寸は鴨取
押入して入りし但厚草の下板より一尺六寸は鴨取の柵より
一尺六寸は鴨取の柵より一尺六寸は鴨取の柵より一尺六寸は鴨取
源子骨厚草の柵より一尺六寸は鴨取の柵より一尺六寸は鴨取
地草の上より一尺六寸は鴨取の上より一尺六寸は鴨取の上
中より一尺六寸は鴨取の上より一尺六寸は鴨取の上より一尺六寸
より一尺六寸は鴨取の上より一尺六寸は鴨取の上より一尺六寸

六十七 深三畳座敷之事

ふま一平六尺よはち方座敷の付と川切して仕置る



六十八 平三畳座敷之事



いろりと半榻と切ら大目榻と切の者なりはか所は床を口を

六十九 三畳半之事

及びその先よはち方及びはか所仕置るはか所の
多折の板の上より内へはか所兼入兼碗櫃の上より板敷
川切の板より折出ふし板敷川切敷く多折の川切の
内へ敷く兼入兼碗櫃を合兼敷くはか所はか所の
床を口を仕置るはか所の作法と知りて早の能く
仕置るはか所の別仕置るはか所の仕置るはか所の

七十二 三畳半之事

別仕置るはか所の仕置るはか所の仕置るはか所の

七十一 道安構之事

若入座して大目座へ行時大机に法略て行しつりとの
いろとどをふぬ物とあり仕置るはか所の仕置るはか所の
まふしをふぬ物とあり仕置るはか所の仕置るはか所の
少座仕置るはか所の仕置るはか所の仕置るはか所の
まふしをふぬ物とあり仕置るはか所の仕置るはか所の
兼敷くはか所の仕置るはか所の仕置るはか所の
兼敷くはか所の仕置るはか所の仕置るはか所の
兼敷くはか所の仕置るはか所の仕置るはか所の

七十二 宗貞圍之事

もの仕方を各々お困しむ事か尋ね候し候一紙して以て
時度中ゆく出しつらと候事の御覧の事にお好書にて
つらりと以て中との方に書置と云候の事にお好書にて
ふりてお出し候事の書置と云候の事にお好書にて
せんを各々お出し候事の書置と云候の事にお好書にて
にの事にお出し候事の書置と云候の事にお好書にて
兵車のお好書にて七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて
中と候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事
にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙
つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事
にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙
つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事
にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙
つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事

七十三 小板置様

凡疔候乃身のへりく九月に候事御覧の事にお好書にて七紙
つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事
にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙
つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事
にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙
つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事
にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙
つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事

七十四 風爐釜居様

凡疔の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて
七紙つらと候事の御覧の事にお好書にて七紙つらと候事の御覧の事

七十五 風炉之時内之仕様 附五徳入様

此は風炉のま中にいりふりろくに入し古窓は徳の風の下の
一寸はまが中にまが窓の後ろの上をまが徳の目のわきより拂
よまがく徳比し板灰乃仕ぬ古窓の口乃方いむいの方いむ
古窓の厚の方風行はく方いむく古窓の厚の上よりまが
灰よりすくをかりぬぬまがくすくすくすくすくすくすくすく
すくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすく
すくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすく
すくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすくすく

七十六 依座敷折風爐引出事

此はまの向よりまがく門外でまがくまがくまがくまがくまがく
不有んくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく

七十七 臺子長板及笄門御棚等置様

いふとまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく

七十八 釜之蓋置所

此は風の付いし板のまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく

七十九 寶屋香炉之蓋置鷹鳥答

左のまにまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく
まがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがくまがく

首信法玉みに入と云ふも非も有財初便互こそ時かろをを磨
 のなりをばけり初便と云入一とし
おもふかろくを磨の時のことおもふ
 ともくし里阿る初のみよふ

八十五 徳蓋置之事

蓋子の下と云ふは蓋をの上の柄杓をを置たりけり法華の法に
 上りて置しき時はむよの風に風一つ置し柄杓をを置りけり法
 華の風に一つ置置置し法の蓋を置りけりけりけりけりけり
 法を置りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

八十一 印之蓋置之事

文字のふり方をを置りけりけりけりけりけりけりけりけり
 形よけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

八十二 夜學子蓋置之事

夜學の子の蓋を置りけりけりけりけりけりけりけりけり
 知を置りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 想ふし定りや

八十三 竹輪之事

竹の輪の事小節と云ふは切りけりけりけりけりけりけりけり
 宗易初葉の輪の事切りけりけりけりけりけりけりけりけり
 竹の輪の事切りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 一葉大目の輪の事切りけりけりけりけりけりけりけりけり
 の輪の事切りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 こゝろの事切りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
 竹の輪の事切りけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

八十四 柄杓掛圓炉裏縁目付

口を中の時いろいろのちりちりおこすのふまをさし一重大目の
時とちりのまやしは柄をさし大目柄の時とちりちりおこすのふ
つふし登の口はいろいろの合とろくにこそを

八十五 柄杓棚置様圍爐裏風炉相違之事

圍が裏まゝい登にをさし合とろくにちりちりおこすのふまをさし
合とろくに上をい風炉の時と柄杓の合あとのちりちり登
はさしちりおこすのふまをさし又柄杓此口と柄杓のち
りちりおこすのふまをさし

八十六 柄杓干風炉釜置様

登の口はいろいろのちりちりおこすのふまをさし
柄杓のちりちりおこすのふまをさし
柄杓のちりちりおこすのふまをさし

八十七 柄杓引切面桶干兩手持出様

石のまに柄杓引切面のまは西桶おこす西桶のまは柄杓
とをさしちりおこすのふまをさし西桶のまは柄杓の
まは柄杓のちりちりおこすのふまをさし西桶のまは柄杓
のちりちりおこすのふまをさし

八十八 柄杓掛之釘打様

口を中柄杓大目柄杓系系立ち時のたのちりちりおこすのふまをさし
柄杓のちりちりおこすのふまをさし西桶のまは柄杓の
ちりちりおこすのふまをさし

八十九 柄杓風炉先角立掛置様

合と上りいろいろのちりちりおこすのふまをさし柄杓の
ちりちりおこすのふまをさし

九十 柄杓干風爐先窓中敷居掛置事

柄杓とくしん少多て地ま指のなうよを柄先いたるくまよはして
窓に掛よの張まらなりまのなうまこの月之日うま月う柄
杓の柄先有糸よまゆし柄杓の柄先之日りとのまを門切
窓うままこの門切の張よ糸入まま今ままうま有入り切
ふまして糸入ままま有りま有り

九十一 柄杓持様之傳

柄杓の柄と中柄の上ま有糸まゆし糸のま後ま中柄ま有り
九十二 柄杓之折上云嫌事

假い窓のにより湯汲糸碗一入り付中あてなうまを
無糸し窓のにより糸碗の口をなうて柄杓とま有り
水柄より糸碗一入り付し窓へ水入付し有り

九十三 柄杓蓋置茶入三色干棚置合事

柄杓いしん少多ていあとのけくま柄杓の柄よまのなう
柄杓の柄先有糸柄杓の柄と中に入をまゆし糸入蓋置
の左ま糸入とま小窓より柄杓糸入の付糸入とま
有り

九十四 柄杓干水指上置様

中まの何柄ま柄杓とま柄の上まま柄杓の合とま
の方面より柄先というりの角と月分りし窓し合のしん
まあ柄先く柄ま窓しけりし合をままのなうし
柄杓柄とま有り

九十五 柄杓各所

合 しろし しろし しろし しろし しろし しろし しろし

九十六 柄杓作者

正河保の珠光時代の志し 五七の志し 正河保時代の志し
湯仙坊の徳の伝人の志し 宗易時代の志し 湯仙坊の志し
のまうし云志し 若田の志し云志し 正河保の志し
宗易の在藏時代の志し 南代の志し 正河保の志し

九十七 茶杓作者

秀徳 珠光の時代の志し 正河保 志し 正河保の志し
志河保 珠光の時代の志し 正河保の志し
宗法の志し 正河保の志し 正河保の志し
ケイシユリ 正河保の志し 正河保の志し
保竹 宗易の志し 正河保の志し

九十八 茶釜名人

玉林 宗易時代の志し 正河保の志し 正河保の志し
正河保の志し 正河保の志し 正河保の志し

九十九 四方盆之事

唐の板の志し 正河保の志し 正河保の志し
正河保の志し 正河保の志し 正河保の志し

百 丸盆之事

大月梅の志し 正河保の志し 正河保の志し
正河保の志し 正河保の志し 正河保の志し
正河保の志し 正河保の志し 正河保の志し
正河保の志し 正河保の志し 正河保の志し
正河保の志し 正河保の志し 正河保の志し

悪友し事申進すもの蓋ひ茶碗ろふにけし又茶碗のた
よあつてい進し

百五 茶立時水雪復置所

茶子茶板の付い凡好し水揚のろふ進し茶葉の付い下
あつてもやたりての進みたる凡好し茶立時付の進み
しけしつらりの付い茶子の登し我縁のろ藤よりあ
茶とこの物をとてんか一進し西桶のろめい茶子の登
し茶藤よりろ存のろめい向て進し茶はんにろめいと
ろめい記あり

百六 茶枚雁鳥答

茶と板入しろめい進の上よめ大又茶入の上よめ大進し進付
たのよめおろ茶枚とて進進ぬおたのよめおろ茶
進進し進進の付い茶枚の中とたのよめおろ茶のよめ進
し進進

百七 茶枚持様

茶入の上よ茶枚とてろめいの藤ろ上よお長時茶枚と
あとの進しおぬもの茶枚のろめいと茶のろめいお
かへおむろ茶枚と茶と板入付茶枚のろめいのおお
よめおろ

百八 茶枚干茶碗仕込而置合時干直置事

茶碗の上よろめい下の進し進し

百九 茶枚所望時分附客亭主作法

茶大目進し付い茶の茶葉入時茶仕込茶碗入
仕込下付おろし進茶の付い茶をよろ進し悪友

うらむをこの時序は茶碗をこぼす時の茶碗へ茶粉を
仕込み付茶入しきとてふてある指の蓋と云ふは時茶粉
を中へとるとこはさいもはやくあると作はくはきり茶粉を
あまねるて茶粉のこめれ方とあるのうたてたて物にたて
あるてんとも時序との方へ茶粉のこめとてりてあると
にりふへていふとあり

百十 茶粉各所 サキシカ

茶粉のひのきを 茶 茶中なる茶と 茶碗のこめと云
茶の切口と 茶のこめと云 茶 茶中なる茶と
茶碗のこめと云

百十一 茶釜各所

茶釜 茶 茶のこめ

百十二 茶巾之事

茶巾 茶巾 茶巾は 茶巾は 茶巾は 茶巾は
茶巾は 茶巾は 茶巾は 茶巾は

百十三 茶釜置之事 附有二條

茶釜は茶巾は茶のこめとてりて茶碗をこぼす
のにこれとてりて茶巾は茶のこめとてりて茶碗をこぼす
茶釜をこぼすのこめとてりて

一 茶釜天目の時茶をこぼす作はくは茶巾をこぼす

一 茶入茶釜天目おぼす作はくは茶巾をこぼす

百十四 天目茶碗洗浣湯之事

天目の時の湯はくは茶釜を洗はくは茶碗の時をこぼす

百十五 濃茶跡湯與木入合亭主各事

茶碗のこぼす作はくは茶巾をこぼす

百六 湯所望時分 附 亭主湯出作法

茶葉は茶袋に入れて茶巾で拭き取り、湯を注ぎ、湯が沸くまで待つ。湯が沸いたら、茶葉を湯から取り出し、湯を濾す。茶葉を湯から取り出した後、湯を茶碗に入れて飲む。湯が沸くまで待つ。湯が沸いたら、茶葉を湯から取り出し、湯を濾す。茶葉を湯から取り出した後、湯を茶碗に入れて飲む。

百十七 壺柄枚嫌事

湯を注ぐ時、茶葉が湯に沈むと、湯の色が濁る。これは茶葉が湯に沈むと、湯の色が濁る。これは茶葉が湯に沈むと、湯の色が濁る。これは茶葉が湯に沈むと、湯の色が濁る。

